

議事録（要旨）

会議名称	第4回 葛飾区リサイクル清掃審議会
開催日時	令和2年1月20日（月） 午後2時00分から午後4時00分まで
開催場所	かつしかエコライフプラザ 2階 研修室
出席者	（審議委員6名） 崎田会長、庄司委員、佐々木委員、谷本委員、谷茂岡委員、大沢委員
欠席者	朝倉会長職務代理者、杉野委員、秋山委員、大山委員
会議内容	1.開会 2.傍聴者へのアナウンス 3.配付資料の確認 4.第3回の振返り （1）議事録確認 （2）資料説明 5.審議 （1）家庭ごみ有料化について （2）今後のスケジュールについて （3）その他 6.閉会
会議資料	資料1 「傍聴されるみなさまへ」 資料2 第3回審議会議事録要旨 資料3 第4回審議会用資料 資料4 第5回開催通知

発言者	審議内容
A 委員	<p><u>1 開会</u></p> <p>それでは始めさせて頂きたいと思います。昨年は大型台風や災害が多く、気候変動が社会的関心事になりました。CO2 削減は循環型社会づくり、ごみ問題が大きく関わる課題です。また今年はオリンピック・パラリンピックの年ですので、多くの方が世界からいらっしゃいます。大会運営がどう実施されるか見届けつつ、上手くいった事に関しては社会で活用し、上手くいかなかった事に関しては共に反省する。そういう大きなポイントにしたいと思っております。</p>
A 委員	<p><u>2 傍聴者へのアナウンス</u></p> <p>今日も傍聴の方がお越しになっていらっしゃいます。お配りした「傍聴されるみなさまへ」をご覧いただき、ご協力いただければ大変ありがたいと思います。よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p><u>3 配付資料の確認</u></p> <p>本日お配りしている物は、まず「本日の次第」と書かれているもの、続いて「第三回審議会の議事録要旨」、それから本日の「第四回審議会資料 (1)」と「第四回審議会資料 (2)」、それから皆様へ「第五回開催通知」をお配りしています。不足している方がいらっしゃいましたら私の方へお声がけ下さい。</p>
A 委員	<p>それでは今日の審議の流れについて確認をさせていただきます。この後「第三回の振返り」で議事録の確認をし、追加でご意見のある方からご発言を頂く時間を取りたいと思います。その後「家庭ごみ有料化」が今日の審議内容です。最後に今後のスケジュールの確認を皆様とさせて頂こうと思います。今日は2時間を予定しています。よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p><u>4 第3回の振返り</u></p> <p>(1) 議事録確認</p> <p>議事録につきまして修正などがございましたらリサイクル清掃課宛てにご連絡を頂ければと思います。また、これまでの審議会での皆様のご発言につきましては、次回、答申案の検討をいたします。その中で審議会としてのご意見をまとめさせて頂く予定でございます。</p> <p>(2) 資料説明</p>

事務局	<p>「第四回審議会資料(1)」は前回の資料のうち本区の取り組みについて抜粋したものです。前は資源について議論する時間をあまり取ることが出来ませんでしたので、短い時間ではありますがお話し頂ければと考えております。内容は本区で実施しております資源に関する施策の紹介のほか、本区の現状として資源化量と資源化率を掲載したのになります。</p>
A 委員	<p>資源回収に関し、まだまだご意見があるのではないかと。家庭ごみは徐々に減少傾向にあるけれど、資源化率も減少傾向にあり、いかに資源化率を上げていくかというのは本区にとって大変重要な課題のひとつです。</p> <p>食品ロスに関しては第一回目にかなりお話を頂きました。そして前は紙とプラスチックについてかなりご意見出たかなと思います。あとは生ごみの資源化というのがありますが、前はこれについてはほとんど意見交換が出来ませんでした。生ごみの資源化について何かご意見があればと思います。</p> <p>生ごみに関しては水気を切って出しましょうとか、堆肥化して家庭菜園などで使いましょうとか、そういう呼び掛けは多くありましたけれど、地域の皆様の関心あるいは状況というのはどんな感じでしょうか。</p>
H 委員	<p>私どもの任意団体では家庭での生ごみ資源化の講習会を開くとかなりの人が集まります。あとは葛飾清掃工場で実施する「ごみ減量・清掃フェアかつしか」で、堆肥化したものをお配りすると30分で品切れになります。そんな状況なので、けっして無関心ではないです。ただ啓発活動がちょっと不足かなという感じはします。</p>
A 委員	<p>家庭で出来ることはやっています。生ごみを集めてバイオガス化するような施設はあるのでしょうか。</p>
C 委員	<p>皆さん講習会にはどういう理由でお集まりになるのでしょうか。自分の家庭菜園なり、肥料に使う人が多いという事でしょうか。</p>
H 委員	<p>堆肥を作っても全部を自分の家では使い切れないので、近隣に差し上げたり、学校に出向いて花壇に活用している人もいます。生ごみをそのまま捨てるのではなく活用出来るということに醍醐味があるようです。</p>
A 委員	<p>生ごみを集めて、組織的に資源化しようというところまで皆さんのお気持ちが持っているわけではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>令和元年度に実施したごみの性状調査の速報値ですと、平成29年度は厨芥ごみが34.3%だったのが若干増えて38.7%になっています。</p>

	<p>厨芥ごみをバイオガス化する施設は、区として中間処理の段階で取り組んでいる施設は今のところございません。</p> <p>ご家庭の生ごみ処理機に補助金を出していますが、なかなか厨芥ごみの減量が進んでいません。そのため、葛飾区生ごみ処理機等購入補助金交付要綱を改正し、平成 29 年度からは、生ごみ処理機とコンポスト化容器購入費に対する補助率と補助額上限額について、補助率は 2 分の 1 から 3 分の 2 へ、補助額上限額は 2 万円から 3 万円に引き上げております。活用状況は、徐々に増えてきているところです。</p>
A 委員	<p>生ごみが可燃ごみの 38%、約 4 割近いというのは量的にかなり多いですね。一般的に食品ロス量は生ごみの 4 分の 1 くらいですので、出してしまったものをどう活かすか、まだまだ資源化に関して考える必要があるのかもしれないですね。事業系だと飼料化、肥料化、バイオガス化、熱、というリサイクル活用の流れは出来ているんですが、家庭系の生ごみの資源化はなかなか進んでいないのが現状かなと思います。事業系もリサイクルはごみ処理より費用がかかるので、やりたい気持ちはあってもなかなか出来ないという声もあり、課題はあります。</p>
F 委員	<p>生ごみも大事な話ですけど、それよりも発生抑制が大事です。いくらごみになるものを買いたくないといっても、消費者は売っているものを買うしかないわけですから、その抑制のほうに力を入れてごみ問題をやって頂くとありがたいなと思います。</p>
A 委員	<p>やっぱり発生抑制が大事。そういう社会的な気運もあります。家庭系と事業系と同じくらい食品ロスが出ている現状の中で、事業系は小売店や外食店が一緒になって取り組んで頂くのが大事ですが、そこで消費者側も、購入の仕方や、外食店で食べ残しを意識するなどそういう事が食品ロスにつながってきますので、事業者と利用者が一緒になって取り組む、そういう気運を地域の中にしっかりと持ってくる事が非常に大事なのではないかと。そのあたりは最終的にまとめを作る時に強調していければなと思います。</p>
C 委員	<p>これからは発生抑制を念頭に置きながら仕組みを考えていかなくちゃいけないというのは僕も大賛成です。</p> <p>家庭ごみの場合、単純に全体の重い軽いで増減を見るのではなく、ごみの組成に注目する必要があります。ごみの中で性的に一番重いのは生ごみです。紙やプラスチックはいくら増えてもそんなに重さは増えません。</p> <p>生ごみという区分、それとプラスチック系ごみ、それから紙ごみ、その他、この三つに組成を分けて、その絶対量の増減の比較をしていかないと、本当の政</p>

A 委員	<p>策的な対応というのは出来ないと思います。リサイクル率を上げていく為には各論的にきちっと数値を捉えてやっていかないといけない。全体で減ってきているのは間違いないけれども、プラスチックごみを含めて考えたら単純に減っていると喜べないところだと思います。</p> <p>今後色々な施策を考える時に重要な話ですね。生ごみは重く、プラスチックはどんなに増やしても軽いわけで、総合して重さがどうかではなく、それぞれの増減や状態をきちんと見るべきという。</p>
事務局	<p>性状調査は3年ごと、区民アンケートは5年ごとにとっております。</p> <p>現状は厨芥ごみと紙ごみが非常に混入率が高いです。資源化を図り、また減量化を図る呼び掛けをしております。</p> <p>金属類に関しては資源化を図っていくことが可能かどうか、審議を頂きご答申を参考にしながら、取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>容器包装プラスチックの資源化は葛飾区は取り組んでいますけれど、23区のうち半数くらいは取り組めておりません。</p> <p>プラスチックに関しては環境問題の影響を考え分別して資源化を図る事業を進めたいと考えております。</p> <p>今後は何が資源化を図れるか、成分分析をし検証を図りながら、またご審議のご意見を頂きながら新しい計画に反映していきたいと考えております。</p>
A 委員	<p>3年ごとに調査をしておられるという話ですので、全体論ではないじっくりとした意見交換をしていければ。</p> <p>小型家電の分別回収も社会的な課題になっていて、リチウムイオン電池がきちんと分けて回収できているのかなど課題があります。</p> <p>容器包装プラスチック以外の製品プラスチックも資源化しようとなると、プラスチック全体の回収量は上がるけれど、その設備とか、どこに委託するか、というところがかなり変わってきます。やるなら大きな決断になります。</p>
I 委員	<p>ごみ問題に関して意識の高い方にモニターになって頂いて、世代ごとや家庭ごとでどういうごみが出ているのか、こういう現状であるというデータを3年ごとではなく、日常的に取っていくと、色々な問題が見えてくると思います。</p> <p>これはごみとして出して良いのだろうかとか、おむつがすごく多くて困っているとか、そういう小さな拾いきれていないものを拾っていくというのも、やっても良いのかなと思いました。</p> <p>もう一つ意見としては、紙ごみの資源化を啓発するチラシを配ったりした後、それで認知が本当に上がっているのかどうか、それで資源回収が増えたの</p>

	<p>かどうか、そういう検証をしっかりとやる必要があると思います。配るにしてもキャンペーン的に、学校や町会やお祭りなどのイベントと連動させて、全体で盛り上げて周知するのも良いのではないかと思います。</p>
A 委員	<p>3年ごとの調査というのを、もっと日常的に情報が届く形になればいい、というお話しですね。葛飾区では、3Rを普及啓発する地域リーダーの育成のような視点で講座を実施していたかと記憶しています。</p>
事務局	<p>本区では、ごみ減量・3R活動を推進する人材として3R推進パートナーの育成や活動サポートをしています。平成23年度から26年度にかけて実施した3R推進パートナー養成講座を修了した方々で「かつしか3Rサポーターの会」という任意団体を立ち上げ、毎年企画講座を実施しています。</p>
A 委員	<p>かつしかエコライフプラザなども活用しながら、情報に触れる機会を増やし多くの区民の方に伝わるような場を作っていくと、意識の高い人だけでなく、より多くの方に現状が伝わっていくかなと思います。</p> <p>それと雑紙回収の呼び掛けがあったようですけど、その結果はどうでしょう。検証はしているんでしょうか、というご質問がありました。</p>
事務局	<p>モニター制度につきましては、環境問題に関してエコチャレンジ・エコマスター制度というのがございまして、ごみ減量や節電など、自分で目標を決めてチャレンジして頂く事業がございまして。</p> <p>啓発後の検証につきましては、年間で出たごみ量を集計しておりますので、傾向について年間で見るとは可能です。</p> <p>ごみ量につきましては毎年どんどん減量しておりますが、資源の量が若干減っていて、結果として資源化率が低くなっている現状です。</p>
I 委員	<p>検証はされているという事なので、その途中経過を周知していくのも大事だと思います。各種イベントや、清掃工場の公開時、学校の授業などで「こういうことをやったら、これだけ成果が出たから、みんなもっとやろうよ」というような周知を継続的にやっていくと、もっと良いのかなと思いました。</p>
A 委員	<p>区民の方全員に細かい情報が行き渡るというのはなかなか難しい事ではありますが、少しでも関心を持っている方には情報がしっかりと届くよう、出来るだけ多くの場を用意する、というのはとても大事だと思います。</p>
C 委員	<p>検証結果を区民の皆さんに知らせるという事は大事だと思います。やった結果、こういう効果が出ましたよ、というのが明確であれば、一番その政策の効</p>

事務局	<p>果が出るだろうと思います。たとえマイナスの効果だったとしても、それはそれでやっぱりもっと気をつけなくちゃいけない、やらなきゃいけないという材料にもなるでしょうし。</p> <p>ごみの減量や食品ロスの取り組みについて記載したチラシや回覧板を4月と10月に区民の皆様や事業者に向けてお配りしています。その紙面にて、ごみ減量の取り組みの結果をお知らせする事を考えていきたいと思います。それと10月のごみ減量月間の広報誌にて皆様に取り組んで頂いた結果をお知らせする事も考えていきたいと思います。</p>
A 委員	<p>色々な検証結果を多くの区民の方に常に知って頂くことで、皆さんのやる気をどんどん上げていくということは非常に大事だと思います。事務局の方も色々努力して下さっているという事ですので、それが上手く効果的にいくと良いなと思います。ありがとうございます。</p> <p>次のテーマはそういった面でも、どういうふうに住民の方の意識啓発につながるかという点では大変重要な施策のひとつです。そちらの方に今日の議論を進めていきたいと思います。</p> <p>資源化に関しては単に全体の重さだけでなく、きちんと内容を見ながら皆さんと話していく、そして色々な減量の取り組みの検証結果がどういうものかを皆さんと話しながら、資源化についてきちんと見ていく、という事は共有されたと思っています。ありがとうございます。</p> <p><u>5 審議</u></p> <p>(1) 家庭ごみ有料化について</p>
A 委員	<p>今日を中心テーマ、家庭ごみ有料化についてお話しをしていきたいと思えます。まず資料に関して事務局の方からご説明頂きます。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>それでは本日の資料の説明、第四回審議会用資料(2)家庭ごみ有料化についてのご説明をさせていただきます。</p> <p>—ごみ有料化について国や都、23区の動向、葛飾区の現行の基本計画について、全国の有料化実施自治体の実施状況、有料化の目的、手数料の料金体系について、手数料の徴収方法、手数料の対象品目について、手数料の水準について、有料化導入による排出抑制率の動向、葛飾区の現状について、有料化を導入した政令指定都市と多摩地区の状況について、最近有料化を導入した自治体の事例、有料化のメリットについて、各自治体のごみ有料化の目的、有料化のデメリットについて、以上の各項目について事務局が内容を説明—</p>

A 委員	<p>ありがとうございます。じっくりと説明して頂きました。大変大事なテーマですので、皆さんにじっくりと意見交換して頂ければと思っています。</p> <p>このテーマが出てくる理由ですが、社会全体でごみ減量が重要課題になっている中で、基本的な市民の意識改革、ごみの発生抑制、費用負担の公平性、それらを担保するものとして家庭ごみの有料化というものが昔から大事な施策のひとつとして言われてきています。特に清掃工場の修理が必要だったり最終処分場の残余が無くなってきている所など、危機感のある所から導入が広まり、現在では64%の自治体が家庭ごみ有料化を採用しています。</p> <p>前回の一般廃棄物処理基本計画には有料化に関して検討を継続していくと書き込んであります。10年経った現在、もう一度きちんと意見交換をしておくことに意義があります。</p> <p>23区はまだ有料化を導入していませんが、同じ東京都でも多摩地域は最終処分場の残余が無いという危機感から有料化を導入し、ごみ減量の効果を出しています。</p> <p>まずはデータに関して色々質問などがあると思います。</p>
C 委員	<p>ご丁寧な資料を出して頂いて大変参考になると思います。</p> <p>ただもう一つ突っ込んでデータを出して頂きたいと思うのは、有料化を実施している自治体について、人口規模別に、あるいは都市の規模別に、あるいは都市部と農村部とで、実施内容や実施状況に違いがあるのではないかと、ということ。</p> <p>それからごみ量の変化について。実施するとまず減り、2~3年経つと反動で増えて、トータルとしては減っていく、というような変化が分かるものが欲しい。3自治体しか掲載されていませんが、全体の傾向を知りたいです。</p> <p>それともう一つ、実施した場合のデメリットについて。デメリットが具体的にどの程度あるのかというデータがあれば欲しいですね。</p>
A 委員	<p>実施前後の変化については、一時期減るけれど大抵そこで住民の方が慣れてしまっていて減らなくなるなどの反動があったりします。そこでもう一回減るようにするにはどんな施策を打つか。それが上手くいった自治体と、上手くいかなかった自治体との違いについては、事務局もお調べ頂いていると思うのでコメント頂ければと思います。</p>
I 委員	<p>デメリットについて、住民負担はどのくらい上がるのでしょうか。若い子育て世代や、介護が必要な世代など、とくに負担が増してしまうような世代に対しては、説得材料が無ければ有料化は受け入れがたいです。少子化だから頑張っただけで子どもを育てているのにゴミまで負担になれば、葛飾区は子育てに良いと聞いたけれどそんな事ない、というような事にもなってしまいます。</p>

<p>A 委員</p>	<p>それと不法投棄、不適正排出がどのくらい増えて、それに対してどう対応するのでしょうか。ちゃんとやっている人からすれば、やっていない人はずるい、という事になってしまいます。</p> <p>あと事務負担はどのくらい増えるのか。年間の区民1人あたりのごみ処理経費が平成30年で12,640円と記載されていますが、これがどのくらい上がるのでしょうか。ごみは減っても費用の面で大変なことになってしまっは納得感がありません。</p> <p>あともう一つ、周知の期間と方法について。時間をかけて上手くいった事例、あるいは逆に急にやって大混乱でしたというような事例が知りたいです。</p> <p>費用負担に関しては日本全国の平均値が年間1人あたり15,000円くらい税金を使っています。東京は平均から言えば低めで、葛飾区の12,640円というのは、日本全体の平均よりは少ないです。</p> <p>家庭ごみ有料化というのは処理費全部ではなく、3分の1くらいを払って頂く感じですか。例えば45リットルの袋が40円～80円くらい地域によって値段設定が違ったりしますが、皆さんどんどん少なくなろうと思うので、大抵45リットルは使わなくなって30リットルを使うようになっていき、月に500円かからないで済むようなお宅が増えていく。</p> <p>値段設定の差は、それぞれの地域で、どのくらい皆でごみに関する課題を共有し課題意識をもってやろうかという値段設定になっていると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口別のデータにつきましては、いま手元の所で作っております。</p> <p>不法投棄への対応につきましては、集積所に出向き、どういう状態なのか周辺の住民の方にお話をさせて頂いたり、ごみ分別の資料を配布させて頂くことを考えています。</p> <p>周知期間につきましては最低でも2年程度の期間は必要かなと考えています。</p> <p>有料化につきましては、東京23区は幸いにして最終処分場がまだ存在しており、埋立残余が50年分くらいまで伸びています。中間処理で埋立量の減量を図り延命化を図っていますが、最終的には埋立量自体をゼロにしていく努力を行政側もしていかなければなりません。ごみを減らす有効な手段として有料化に取り組みればという事で、いまご審議を頂いております。</p> <p>成功自治体につきましては、可燃ごみの中からペットボトルや容器包装プラスチックを資源化したりとか、有料化を図った時点で戸別収集に切り替えてサービスアップすると共に適正な排出を促していくといった事が成功例としてあります。</p> <p>散り散りのお答えになってしまいましたが、今お答えできる範囲は以上になります。</p>

A 委員	<p>ありがとうございます。残りは調べて頂いて、次回に資料提示して頂ければありがたいです。</p> <p>子育て中のご家庭には指定袋を何枚かお配りして使って頂き、それを越えた分は有料袋にして頂くとか、そういった介護や子育て中の方に対する補助は各自自治体でやっているはずなので、調べておいて頂くのも大事なかなと思います。</p>
H 委員	<p>将来的に有料化は避けられないと思っています。環境保全に関わる個人的な経費だと私は考えます。変革する時には必ず混乱します。簡単に行くより色々と考えて揉まれた方がいいかなとも思います。重要なことは人間としてこの地球で生かされて、その保全をどのようにしていくかという事にお金かけて欲しいと私はと思っています。デメリットに関しては次回以降もっと話が深まるのを期待します。事務負担というのは区の仕事の中身の事なのでしょうか。手数料徴収事務というのは細かく言えばどんな事なのでしょうか。</p>
事務局	<p>事務負担というのは、内部的な管理の事務量が増え、その分人件費がかかるという意味です。手数料徴収事務の内容は、お金の管理と、売り上げ数の集計です。</p>
F 委員	<p>有料化しなくても良いという考え方は全然ないんですか。葛飾区はほかの区と比べて頑張ってきましたが、それでも有料化しなきゃいけないとしたらその理由は何なのか。それがきちっと出てこない、区民の皆さんがやってきた事が無駄になってしまう。</p> <p>この経済的に大変な時に、有料化はしたくありません。でも色々な事情で有料化しなきゃいけない時代が来ているのかもしれないかもしれません。それはそれで仕方ありません。だったら、これだけは行政が持つから、これだけは消費者が持つてよね、という金額的な配慮を頂きながら前に進めていかないといけないと思います。葛飾区はやらないで済むように、その代わり区民はここまでやりなさいよという方向が出ればありがたい。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。なぜ今議論するのかという事、そして葛飾区にとってこの議論はどういう意味を持ち、どういう可能性があるのかということですね。</p>
事務局	<p>有料化に向かっているという事ではございません。ごみ減量がこれ以上進んでいかなかった時の有効な手段としてご提言を頂きたく、テーマとさせて頂いています。</p>
G 委員	<p>本当に有料化が最終的な手段なのか、そこまで行き着いているのか、その前に</p>

	<p>やるべき事があるんじゃないか、やるべき事をやり尽くしたのか、そういう話が出てくると思います。私の考えは、もう少し分別とか発生抑制に力を入れてお金もかけてやって、それでも駄目であれば最終的に有料化。そこまで来ているのかは分かりませんが。</p> <p>資料を見ると千葉市は一人あたりのごみが 1,100 グラムに対し、葛飾区は今のところ 494 グラムとなっていて、千葉市が有料化するよりも量は減っている形になっています。</p> <p>清掃工場がある区と、無い区で、同じ金額で良いのか、23 区全体でのバランスの取り方もよく議論しなきゃいけないと思います。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。やはりこの問題、区民の負担にもなりますので、しっかりと議論して欲しいという話です。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。ごみの減量につきましては徐々に減ってきてはいますが、減少の傾向がちょっと鈍化しています。リサイクルに関心があって、分別の徹底で資源化率の上昇もあるのですが、発生抑制ということが皆さんにもっと浸透していくように取り組んでいかなければならないと考えています。現在のところ清掃工場は 23 区の共同運営ですが、工場がある区には車が入ってくる負担がありますし、負担の軽減、平準化は 23 区の中でも議論はされています。その決着はまだ完全には着いていませんので、動向を見ながら負担の割合などを検討していかなければならないと考えています。</p>
F 委員	<p>発生抑制するにはどうしたらいいのかという事を、我々消費者だけではなくて、できれば行政にやって欲しいんです。ごみの後始末だけしては何にもならないです。できるならば、葛飾区はこういう形でやっていくという、ほかの区と違った形でも私は良いと思います。</p>
A 委員	<p>発生抑制をしっかりとやるのが大事という話がありました。じつは 10 年前もかなり議論をさせて頂き、皆でやれる事をしっかりとやりましょうという事でした。皆さんの努力でごみは減ってきているけれども、リサイクル率は上がっていないなど、まだまだ課題はある。</p> <p>家庭ごみ有料化は 10 年前にも皆さんと意見交換した課題です。この東京 23 区が抱えている社会課題に関して何も議論せずに通り過ぎてはいけません。葛飾区よりももっと真剣にならなきゃいけない区がたくさんあり、ごみ減量が出来ていない多くの方に、それを考える必要があると感じて頂くうえで、この課題を真剣に議論するという事自体は大変重要だと思います。今日はとても大事な日だと考えます。まだまだご意見あると思います。</p>

<p>C 委員</p>	<p>ごみを減らす手段として有料化が一番有効だという議論自体は全然変わっていないと思います。10年前の時は、ごみを減らす一番の目的は、埋立処分場や処理施設が少ないから処理量を減らすというものでした。40年前はごみ処理施設が足りなくて、燃やさないでどんどん埋め立てていて、ごみを減らそうと言われるようになった頃には埋立処分量はせいぜい十数年と考えられていた。それが処理施設も増えてだんだんごみも減ってきて色々と改善され、今では数十年もつだろうと、はっきり言って処分場に余裕がある状態になってきた。それでもこれ以上減らす、まだまだ一生懸命減らす必要があるというのは、別の角度からの視点で、これからはやっぱりごみ量を絶対に減らしていかなきゃいけないという事だと思います。それは今、非常に危機的な状況になってきている温暖化の問題があるからです。ごみ減量という視点を新たな地球温暖化の問題と含めて考えていく時期にきているんだろうと思います。</p> <p>何のためにごみ減量をするのか。現時点で考えなくちゃいけない課題はきちっと整理していくことも必要だと思います。燃やせばCO₂が出ます。温暖化のCO₂換算では、ごみは全体の約4%の寄与率です。燃やすだけじゃなく埋立からも出ます。ですからごみを減らしていくことを、温暖化の視点からより同義に政策的に位置付けていく必要があると思います。</p>
<p>A 委員</p>	<p>ごみの絶対量を減らすという事そのものが、温暖化対策や気候変動の今の時代の対策として必要だというお話を頂きました。</p> <p>それに付け加えてお話しすると、今世界的に資源を発生抑制型にして、天然資源の採掘を減らしていく、天然資源の使用を減らしていく、そして出来る限りリユース、リサイクルをして、その再生資源をもう一回使っていくという、3Rという言い方をサーキュラーエコノミーという大きな言い方もしてきていますけれど、そういう形で天然資源を使うことを出来るだけ減らしながら皆で発生抑制しリサイクルをするという大きな流れをちゃんと作っていき、最終的にはごみとしての発生量を絶対的に減らしていくという、そういう社会を作っていくというのが今の大きな社会テーマになってきていると感じます。</p> <p>そういう意味で消費者、市民側の出来る事として自分たちが意識を持ってやるための大きな政策的なきっかけとして有料化政策というのが、まず第一歩としては大事なのではないかという辺りにまで考え方としては来ているのかなと感じます。ただ議論もせずに突然その政策だけを入れても反発にあうだけで何にもなりませんので、きちんと時間をかけて議論しなければなりません。</p> <p>色々ご意見頂きましたが、一応全員のご意見は頂いたようです。有料化は地球環境問題を考えれば非常に重要だけでも、制度的に導入するには社会的な状況、経済的な状況を見据えてくださいというご意見もありました。あとは有料化のデメリットがどういう状況で、それを解消するためにどうしたのか、という事をデータとして出して頂きたいという辺りですね。今日のところはこれで</p>

A 委員	<p>よろしいですかね。</p> <p>(2) 今後のスケジュールについて — 一次回以降の日程を一同で調整 —</p> <p>(3) その他</p> <p>この後 3 月と 5 月に意見交換をし、その次 6 月に答申というスケジュールが出来てきましたので話を進めたいと思います。</p> <p>今まで、食品ロスの発生抑制、資源化、そして家庭ごみ有料化についてお話しをしてきました。それらを総論としてまとめて頂き、また皆さんと意見交換をして現代らしい内容にしていければと思います。</p> <p>有料化の議論の中で、収益をどう使うかについてですが、一般会計に入っていけば教育費や育児や医療などを手厚くして頂くことも可能になるので、そういう意味では厳しいだけの施策ではないという視点もあるかと思えます。</p> <p>全国や多摩地区の流れからみて、23 区もベースは同じ制度で、その上でどう減らしていくか暮らしていくかという流れになればいいなと私は思います。</p>
事務局	<p>次回 3/19 は今までご審議頂いた内容をまとめた答申案の骨子を確認して頂きます。また性状調査と区民アンケートの速報値も皆さんに見て頂き、今までの審議で補正する点がありましたらご意見を頂く形になります。</p> <p>その次の 5/19 で答申案を固めたものを最終的に確認して頂き、6/29 に答申を区長にお渡しするという手順になります。</p>
C 委員	<p>今度の新しい計画はこれまでの延長ではなく、地球温暖化の事も含めてひとつの時代の転換点ですから、新しい視点なり必要な転機、危機意識を念頭に置いて作っていく必要があるかと思っています。</p>
F 委員	<p>討議して欲しい議題が分かれば、みんな考えて来ますので、ある程度早めに送ってください。</p>
A 委員	<p>3/19 の数日前に草案を送って頂けるようにして頂き、しっかりとご意見を頂けるような形にしたいと思います。</p> <p>温暖化や資源管理という大きな転換点の中でどうするのか。どう打ち出していくのか。食品ロスとプラスチックに関する事は具体的に明確に出てきています。今までの議論を踏まえて、それを上回るくらいの提示をして頂ければ大変ありがたいと思います。</p> <p>葛飾区は 10 年前からかつしかルールという言い方で地域らしい取り組みをずっと進めてきていますが、いま地域循環共生圏という言葉を使いながら、その</p>

<p>A 委員</p> <p>一同</p>	<p>地域で一番やりやすい資源の循環を作っていくという事もかなり言われています。そういう特徴的なものとして葛飾区は何が出来るのかという事をもう少し話し合っていけるような流れになればなお良い、という感じもします。</p> <p>次回皆さんでその辺りの意見交換をし、その次の5月の時にまたそれを練った形で意見交換をじっくりする。そういうふうに進める事が出来ればなと思っております。</p> <p><u>6 閉会</u></p> <p>毎回、皆さんからしっかりとご意見頂きまして本当にありがとうございます。また次まで宿題という感じですが、事務局の皆さんもどうぞよろしくお願ひします。皆さんもありがとうございます。お疲れ様でした。</p> <p>ありがとうございました。 以上</p>
-----------------------	---